

クラス担任のための Career Guidance

2013 >> VOL.15

【キャリアガイダンス 特別編集】



生徒の自律を促す

周囲との人間関係づくりが上手な生徒は、何ごとにおいても積極的に物事をとらえる傾向があります。そんな生徒を育てるグループワークのポイントをご紹介します。

コミュニケーションのグループレッスン

他者とのかわりを体験して、自ら成長する足がかりを得る

大学のキャリアセンターで多くの学生と話をしていると、自分の将来に対して明るい希望を抱き、物事に積極的に取り組む姿勢のある学生は、自己開示や他者の受け入れが上手だと感じることが多い。そういう学生は、クラブ活動や日常生活のさまざまな場面で、時には摩擦や葛藤に直面しながらも、そこから逃げずに自分や他者の様子をふりかえり、考え、対処してきた経験を積み重ねている。こうした経験が、社会生活を営むうえでの前向きな姿勢の基盤となっていくようなのだ。

教室でも、コミュニケーションを深めるグループワークなどを体験させることができないか。南山大学の津村俊充先生の近著「プロセス・エデュケーション」から、HRや授業づくりのヒントを探った。

「ふりかえり」と「わかちあい」によって、プロセスを味わう

津村先生が長年行ってきた人間関係づくりのための体験学習は、「ラボラトリー方式の体験学習」として知られているが、その基本的な考え方式として重視されているのが、

- ①「コンテンツとプロセス」
- ②「体験学習の循環過程」という二つの視点。①は、他者と話をしたり、一緒に仕事を行う際、話題や仕事内容などの表面に出ている部分を「コンテンツ」、その水面下で刻々と変化しながら一人ひとりの中に起こっている感情や思考、行動などを「プロセス」と分け、プロセスに注目し、大切にすることで、気づきを得ていくというもの。②は、いわゆる問題解決のサイクルともいえる、左図のような考え方を大

教師(ファシリテーター)自身が、プロセスを意識することが大切

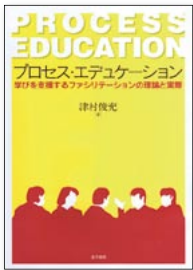
そんなプロセスをふりかえるための体験学習としては、情報カードを使ったグループワークや、コンセンサス(合意形成)をするグループワーク、アクティビティを伴うグループワークなど、さまざまなものが教材として「プロセス・エデュケーション」でも紹介されている。これらのグループレッソンは、教材そのもののインパクトが強いので、「できた!」「おもしろかった!」と、日常生活に繋がらないイベントで終わってしまいかねない。

そこで重要になるのが、プログラムを実施するにあたっての教師(ファシリテーター)自身の意識。「教育者自身がプロセスに気づき学ぶ姿勢が必ずしも必要なのではないか」と、日常生活に繋がらないイベントで終わってしまいかねない。

要になる」と津村先生は説く。例えば、下に紹介した「コンセンサスワーク」の実施の際も、生徒が何を議論しているかというよりも、生徒同士がどのように議論をしているか(もしくは議論をしていないか)に注目し、生徒同士の中で何が起っていたか、生徒と教師の間で何が起っていたか、「今」このプロセスを重視して、ふりかえりの時間を大切にしていこうとが必要なのだ。

そんなプロセスを重視する体験を経ることで、生徒一人ひとりが、自分の対人行動に気づき、他人を受け入れ、自分を認め、自ら成長する足がかりを得られるのではないだろうか。

事にしながら、体験学習を行うという視点。実習を単に行うことが重要なのではなく、その過程(プロセス)において自分や他者に何が起っていたか「ふりかえり」、その考えを「わかちあい」することが、非常に重要になるといえる。

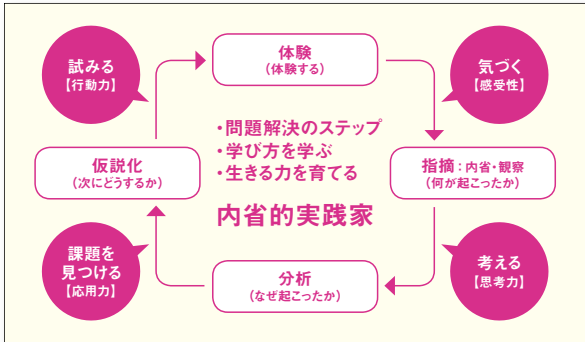


プロセス・エデュケーション
学びを支援するファシリテーションの理論と実践
津村俊充著 金子書房

学級の中や学校の中における生徒と生徒の関係、生徒と教師の関係、教師と教師の関係づくりなどのために、著者が長年実践してきた「ラボラトリー方式の体験学習」の理論から実践まで、詳しく説く。すぐ使える実習教材も数多く収録されている。

著者 ●津村俊充(つむら・としみつ)1951年生まれ。南山大学人間関係研究センター長。学校心理士。マサチューセッツ大学教育学大学院にてセルフサイエンスを学び、NTL Instituteにて体験学習のトレーナー・トレーニングを受ける。2012年、日本人として初めてのNTL Instituteメンバーとして認められる。人間関係トレーニングなどの著書多数。

体験学習の循環過程



体験学習の構成とファシリテーションガイドライン

※「プロセス・エデュケーション」より抜粋

1 導入(ねらいと手順の説明)

今日のプログラムをなぜやるのかをわかってもらう大切な時間。課題とルールを明確にして、実習をたっぴり行うことができるようにする。

2 実習の実施

たっぴりと体験につかる時間。特に、興味・関心をもってグループ活動に取り組んでもらうためには、実習課題の目標と内容の明確化ができていないかが大切になる。

3 結果の発表と正解の発表

学習者が集中して取り組んだ結果を発表する時間で、自分たちの達成感や評価をする大事な時間。

4 ふりかえり用紙の記入

熱く体験していた時間から少し自分や仲間、そしてグループを冷静に内省・観察する時間。気づきを拾い集める時間。

5 わかちあい

自分ひとりの気づきだけでなく他の仲間の気づきをたくさん知る時間。仲間の気づきを知ることによって、気づきが広がり、さまざまな視点からグループの中で起っていたプロセスを理解する時間。できる限りさまざまな違う意見が聞けることを学習者が楽しみにする時間になること。

6 インタビュー&コメント

この時間は、学習者の学びを拾い出し、学びを概念化することによって、学びの確認と同時に次の新しい場面で学びを活用できるように支援する時間。また、グループ活動の気づきや学びを日常生活につなげる大切な時間。

コンセンサス(合意形成をする)ワーク事例 ※編集部作成

正解のないコンセンサス実習

生徒には、まず自分の考えを決め(個人ワーク)、その後グループで話し合いをして(グループレッスン)、グループとしての決定をするように促します。その際、早決め(多数決など)をしないこと、決定に全員が納得できるまで十分話し合うよう注意してください。グループレッスン終了後、たっぴり時間ととってグループレッスンの自分とメンバーの様子を、ふりかえりシートやその後のインタビューなどで考える時間を設けてください。

課題

助け合い運動に協力しよう、クラスで募金箱を作りました。設置期間は3週間。その間、各自で募金を集めただけ集めようということになりました。斉藤さんは、早速駅前で、放課後と休日、道行く人に募金をお願いをして、お金を集めました。山田君は、塾の先生に事情を話して、先生たちから募金を集めてきました。遠藤君は、部活動が忙しかつたので、親に事情を話して少し多目のお金をもらって募金しました。鈴木君は、着なくなった洋服や雑貨などを集めてフリーマーケットに行き売って、その売り上げを募金しました。西山さんは、特別なことをする必要はないと思い、自分のお小遣いから出せる分だけ募金しました。田中さんは、SNSで仲間呼びかけなどネットを利用してお金を集め、募金しました。共感できる人から順番に、順位をつけてください。

<順位付けのシート>

	自分	班の人1	班の人2	班の人3	班の人4	班の決定
斉藤						
山田						
遠藤						
鈴木						
西山						
田中						

<ふりかえりシート>

- 自分の意見をどの程度言えましたか? (どの点で、どのように) [1 2 3 4 5] 言えなかった 言えた
- メンバーの発言をどの程度聴きましたか? (どの点で、どのように) [1 2 3 4 5] 聴けなかった 聴けた
- コンセンサス(合意)はどの程度できたと思いますか? (どの点で、どのように) [1 2 3 4 5] できなかった できた
- この実習を通して、自分自身のコミュニケーションのとり方や、特徴など、印象に残ったこと、感じたことを書いてください。
- グループの他のメンバーの動きが気づいたことを挙げてみましょう。どんな動きが、どのような影響を与えたと思いますか? (どのような行動が) (どんな影響を与えた)
- コミュニケーションや意思決定するために、大事だと思ったこと、気づいたことを書いてください。
- その他、感じたこと、考えたことなど、何でも。



東北に! みんなのサクラを咲かせよう

「学びたい」を地球の未来のために。そして、東北の未来のために。

高校生のみんなへ。

リクルート進学ブック OR リクルート進学ネット OR 受験サプリ

を通じて資料請求、または会員登録をすると、

高校生の進路選択行動が、東北地方へのサクラ植樹へつながります。リクルート進学メディアを通じて資料請求、または会員登録を行うと、そのアクションを行った人数×1円がカウントされ、東北地方へのサクラ植樹の原資となります。

<http://shingakunet.com/rnet/eco/>

構成・文 / 清水由佳(ライター・キャリアカウンセラー)